

哲学対話同好会 2024

第1回テーマ「人の性格は生まれつきか、環境により作られるのか」

参加者：生徒6名 ファシリテーター：村木悠

日時：2024年4月22日(月) 18:00~19:00

場所：都立新宿山吹高等学校 3階315教室

対話時間《37分》

※対話の記録を読みやすく加筆修正しました。会話文と多少異なるところがあります。

ファシリテーター (村木)

では哲学対話を始めていきたいと思います。議題は、『環境によって人間の性格が作られるのか、生まれつき備わっているのか』です。

手挙げてもらいましょうか。人の性格は環境によって作られる部分が多いのではないかと思う人、いますか。

(4人、手を挙げる。)

ありがとうございます。じゃあ逆に生まれつき備わっているものだと思う人は？

(1人、手を挙げる。)

他の方はまだ決まってない感じでしょうか。では、人の性格は環境によって作られる部分が多いと考える方、何か意見ありますか。

参加生徒

性格の地盤は、親など遺伝的な生まれ持ったものが大きいと思います。性格を造形物に例えると、1番最初に根底にあるのが緑色の木でできた四角い形みたいなので、それが環境によってどんどん変わって行って、ピンクの粘土で星型にすることもできると思う。性格は変わっていくけど、生まれつき由来のものが結構あるのかな。自分で言っていてわかんなくなってきました。

ファシリテーター

ありがとうございます。性格の基盤はやはり生まれつきの部分があるけど、その上に作られる性格は環境によって形が作られ、長く生きていく中で変わっていく。なるほど。じゃあやっぱり環境の部分が多いですかね。ありがとうございます。他、同じ意見でも構いません。お願いします。

参加生徒

元々性格は生まれつきなものと考えていたんですけど、なんか明確に考え方が変わったなっていうタイミングがあるんです。だから、性格の基盤は遺伝的で生まれつきなんですけど、持っていた考えを改めることとかで、後から性格が追加されていくんじゃないかな。「こういう人になりたい、その人に近づきたい」って考える

ようになって、私は変わった気がします。

ファシリテーター

なるほど。ありがとうございます。やはりロールモデルというか、生きていく上で参考にしたい憧れのような存在が、自分の性格と考え方を変容していく。

では、まだどっちか決めかねているという方がいましたが、ご意見ありますか。

参加生徒

私は幼少期からチアを習っていたのですが、それで明るい性格っていうのはできていたなと思います。ただ、チア習う前の性格なんて自分は覚えてなくて。だから、どっちもあるんじゃないかなって。今五分五分かなって思っています。

ファシリテーター

ありがとうございます。ご自身の経験からですね。

参加生徒

私も似たような感じなのですが、元々の性格って本当に変化して無くなるのかなっていうのを考えていて。言い換えると、その性格が表面上に出づらくなっているだけで、無くならずに残っている。根元の部分が少し変化することはあっても、性格自体は消えずに見え方が変わっていただけなんじゃないかな。

ファシリテーター

そうすると、変化しているというよりは、成長していく上で見え方が変わっていただけであって、本質は変わっていないんじゃないかということですね。ありがとうございます。

皆さん、どうですか。人間って変わりますか。お、どうぞ。

参加生徒

なんか、性格っていうのをちょっと科学的に考えたら、脳内で幸せ作用みたいなのがどれくらい分泌されるかとか、逆に辛くなりやすい脳の形みたいなのもあると思うんです。

幸せになりやすい脳っていうのはそのまんまで、そういう基盤の上に性格っていう思考が重なってるんじゃないかなってちょっと思って。例えると、出力が生まれつきで、ブレーキをコントロールするのが性格の役割なのかな。ちょっと言いにくいんですけど。

ファシリテーター

なるほど。出力の部分が決まっているんじゃない。ありがとうございます。

でもさ、山吹の子でも多いんだけどさ、「私のこのネガティブな性格を直したいんです」って言い続けて、ずっと苦しんでる子っていっぱいいますよね。

多分皆さんの中でも自分のこの性格が嫌だ、変えたい思ってる部分あると思います。僕もあります。でも変わんねえんだよな。どう思います。それ。

参加生徒

私はなんか幼い頃からちょっと色々あって、ちょっと暗い性格になって。その後、ちょっとショッキングな出来事があって、暗い性格にちょっとずつ変わっていつちゃってるなって思っています。その出来事が私にとって一番大きくて、逆に大きい良いことがあったら、また変わるんじゃないかなと、ちょっと思いました。

いや、ここ10数年間そのくらい性格で生きてるので、変わるってことは結構難しいことだと思っています。なんか経験から「もうダメじゃん」みたいに思うことがあっても、そのまま「もうダメじゃん」って諦めきってる状態だとマイナスな方向にしか考えられなくなるので、考え方次第なのかなって思いました。

ファシリテーター

ありがとうございます。大きい出来事、自分が変わる大きな出来事に会えれば変わることもあるかもしれない、ということですね。

参加生徒

僕は、明らかに性格を自分で変えたなっていうタイミングがあります。僕は、元々小学校の頃はクラス全員と友達で、根っからの陽キャみたいな人だったんですけど、1回海外行ったときに、僕英語できなくて、それで話せなくなっちゃって、すごい根暗になったんです。でも、その時もまだ性格はあんまり変わってないなって思ってたんです。それでまたこっちに戻ってきて、当時受験や人間関係もあって、メンタルをすごい病んでたんですね。その時に、すごい憧れた人っていうか、救われたと僕が思った人がいて。

で、その人に対し明確に「自分はこうなりたいんだ」と思った時に、自分の性格を暗い方に落とし込んだんです。だから性格は多分暗いかも。

でも、なんて言うんですかね、小さな癖とか、そういうものは生まれ持ってきたもので、今まで生きてきてできたものだから、なくなることはない。でも、根底の考え方は結構やろうと思えば覆せちゃうんだらうなって思ってます。

ファシリテーター

ありがとうございます。ちょっとここで整理したいのは、おそらく今、性格と生き方とか考え方っていうのがごっちゃになりながら話が進んでる気がします。

考え方が変わるってのはよく言われることなので、おそらく考え方は変わるんでしょうね。性格が変わるっていうのが、一体それをどういう風に。ちょっとそこの定義をしないと。性格って何。性格ってなんですか。性格ってなんだ。

参加生徒

自分の中で思ったのが、車に似ているなど。なんかそのアクセルを踏んですごいバーンって出ちゃう人とか、踏んでも全く進まない人っていうのが根底にあるもので、でもそれをコントロールする思考みたいなものも含めて運転した車っていうのが性格なんじゃないかなって思いました。

ファシリテーター

うんうん。はい、お願いします。

参加生徒

「性格って何」という質問の答えで、単純に他者から見てその人を表す形容詞。静かだとか怒りっぽいとか優しいとかそういうことじゃないかな。

ファシリテーター

ありがとうございます。じゃあ聞きますけど、隣の人の性格、一言で表せますか。明るい暗いって 多分全員どっちでもないような。明るい部分持っているし、暗い部分も持っているしね。

引っ込み思案なところがあれば、目立ちたがりな部分もある。多分全員が。人間って多分両方持っているような気がするんですよ。

形容するのが難しいんじゃないかと思うんですが。ますます性格ってなんですか。じゃあちょっといきましようか。はい。

参加生徒

私が思うに性格っていうのは、本当にその人の性質みたいなもので。

私たちって人を話す時に「自分はこう思われたいから」って少しだけキャラを持つじゃないですか。

性格っていうのはほんとにそれ抜きでわかりづらんですけど、先生の言う通りもっと複雑で、自分じゃどうしようもないようなところだと思います。

ファシリテーター

ありがとうございます。そうか。「人からこう見られたい」っていうのとは違う根底の部分が、性格って言うならば、たぶん彼がさっき言っていた自分はこういう風に自分を変えたっていうのは、じゃ、それは「性格じゃない部分」なのか。「人からどう見られるかの部分」が変わっていったって考えていいのか。

参加生徒

僕の考え方は、性格っていうのは、人と関わっていく以上人に帰属するものであって、自分でどうこうすることはできるけど、結局その判断は他人に委ねていると思います。

だから「他人にこう思われたい」という感情こそが性格だと思ってて。なんて言うんですかね、「他人にこう見られたいから、僕はこうやって人と話すんだ」という。例えば、今僕がやってる喋り方なんですけど、会話に「なんて言うんですかね。」とか、「例えば」とか、ちょっと変な伸ばし方をするんですけど、これもわざとしているんですよ。なんでかと言うと、なんかネクラな印象を受けるとか、会話がうまくないっていうか、手持ちぶさたなイメージを持たせるじゃないですか。でも、それをわざと自分の会話に入れて、自分の会話のリズムを、テンポを作るようにしたんです。物事を考えてるんだっていうのを周りにアピールして、新たな性格の他人への見せ方、自分の見せ方の1つとして、話し方とか身振り手振りとかを組み込ませて、それがその人の性格なんじゃないかって僕は思ってます。

ファシリテーター

ありがとうございます。「人にどう見せるか」「どう見られるか」の部分が性格になる。

参加生徒

なんか伝わらなかったら申し訳ないんですけど、例えばスマホの明るさの調節の機能で、普段の明るさを0とするじゃないですか。で、めっちゃ明るくすると100になるじゃないですか。めっちゃ暗くするとマイナス100になるじゃないですか。この間とかで、いろんなカテゴリーがあって、例えば、明るい暗いとかそういう形容詞、形容詞でも一言では表せないけど、そういうカテゴリーの、チューナーの動かし方によって、人の性格って決まってくるんじゃないかな、ちょっと思いました。

ファシリテーター

なるほど。ありがとうございます。はい。

参加生徒

性格って多分一言で絶対表せないし、その人の思考回路の根底にあるものだと思ってて、そこからこう見せたいとかって思うところから来てる部分もあると思っています。それがあからこそ、物事への感じ方も決まってくるから、性格はほんとに複雑で、十人十色なんじゃないかなって。

ファシリテーター

ありがとうございます。じゃあここまでのお話ちょっとまとめると、「人にどう見せるか」という部分を性格と捉えたならば、じゃあいくらでも性格って変えられる。

参加生徒

私は性格は変えられないんじゃないかなと思っています。

私は結構人によって態度が違うんです。そうやってしまうとすごい印象悪いんですけど、「家族に見せる顔」と、「学校で先生に見せる顔」と、「仲のいい友達に見せる顔」があって、結構態度も違ったり、敬語とかタメ口の使い分けたり。そこでいちいち性格が変わってる訳じゃなくて、自分の中にある芯みたいな部分は別に変わってないので、性格というよりも外面が変わってるだけで、性格はどこでもあまり変わらないんじゃないか

なと思いました。

ファシリテーター

ありがとうございます。

参加生徒

先ほども言っていた通り、やっぱり、外面と違って変わっていくとは思いますが、芯は多分あるとは思いますが。さっき言ったように色々あったりして、変わってしまう部分もあるので、やっぱりコロコロ変わるって意味では、それは性格ではないとは思いますが、私みたいに変わったりすることもあるのではないかなと思いました。

ファシリテーター

ありがとうございます。そしたらじゃあこれ、じゃあ全員同意いただけるのかな。もちろん、外面という言い方今出てきましたが、「人にどう見られたいか」という部分については、色々生きていく上で変わっていく。でも人間にはどうしても変わらない部分がある。そこをなんと呼ぶかは難しいと思うんですけど、そこは全員同意。うん、ありがとうございます。じゃあ「変わらない部分」ってなんで決まる？いつ決まる？

参加生徒

私、結構小さい頃の記憶と違っていっぱい残ってるタイプで。こう、小さい頃のイヤイヤ期の記憶を、最近結構思い出したんですよ。で、私小さい頃から「腹ぺこ青虫」を読むとめっちゃ泣くんですけど、読む度に、今の15歳の私が言うのであれば、死にたい感情みたいなのがあって。2歳とかの頃だから、多分それは、さっきの「変わらない部分」、自分の気質みたいなものだと思って。今、死にたいとかこう消えたいとか世界と自分が離れてるんじゃないかみたいな考え方みたいながあると思って。でも、それって多分、憧れの人がいるとか「自分がこうなりたい」とか「これじゃダメだ」とっていっぱい考えて、考えた結果、段々、段々それをコントロールする何かができるんじゃないかなって思ってます。

ファシリテーター

ありがとうございます。はい。

参加生徒

性格ってすごい経験によってできるものだなってすごい思ってます。

例えば、「明るい性格はどこから来たの？」って言われたら、多分小学校とかで多分たくさん人がいる環境だから、それに適応するために明るい性格になったって言えます。

虐待されていた人の記事を読んだことがあるんですけど、その人は大きい声を出したり、感情表現をしまったりしたら、親に叩かれたりしていたので、素を表さないような性格になっていったって言ってたんですよ。

ね。つまり、私は何言いたいかっていうと、性格っていうのは生まれつきとかじゃなくて、その時その時に蓄積された経験から環境に適応しようとしてできるものだなって思っています。

参加生徒

私も先ほどの意見に賛成です。うまく物事を伝えられないとか、自分もそういう経験をしていて、その時その時でやっぱり適応していくために、自分を変えたりとかすることってあるので、そういう意味では性格なんじゃないかなって思います。

ファシリテーター

ありがとうございます。はい。

参加生徒

僕も性格を変えたタイミングで、適応するっていうよりかは、もう憧れたその人そのものに近づくために変えたわけであって、逆に言うと、環境からどんどん離れていく方みたいな。例えば、元々はもうちょっと早起きできたりとか、普通に学校通えたり、友達も普通にいたし、社交的なタイプだったのですが、明確に社会に適應しない方向に行ったタイミングがあって、そっちに向かってったんですね。だから、環境への適應だけじゃないような気もしてて。逆にわざわざ環境から離れていく方でも性格は変わりうるんじゃないかなと思いました。

ファシリテーター

ありがとう。

参加生徒

私もちょっとそこに分かる部分があります。意識的に変えないと私は生きていけなかったんですけど、変えないと自分がもう苦しくて仕方がないから、もう変えるしかないみたいな感じで変えた時がありました。そうしないと生きていけなかったし、それを諦めないと私は生きていけないんだと思った部分があって。それって多分意識的に変えてるんですよね、きっと。意識的に変えてるから、決意とか決定する出来事とかがあれば変わることはあり得るけど、そう簡単ではないよって話。

ファシリテーター

はい、ありがとうございます。どうぞ。はい。

参加生徒

話ちょっと変わっちゃうかもなんですけど、皆さん自分の性格がどういうものか、はっきり認識してるんですか？

ファシリテーター

気になるよねえ。じゃあお願いします。

参加生徒

なんていうんですかね、さっき言ってた僕が性格明るい時期は、「性格ってなんなんだろう」とか「自分の性格はこうなんだ」とも考えたことなかったんですけど、明確に性格を変えたタイミングでは、明らかに自分はこういう性格になるんだって決めてて。

元々僕は「俺」っていう一人称でずっと喋ってたんですけど、「俺」っていう自分が嫌いすぎて、社交的で明るい自分が嫌いで。だから、憧れの人に近づくために、「その人はこう考えるだろうな」「こういうものが好きだろうな」ってものを、自分が好きになるようになるまでずっとそれを見つけて、好きになって、感情をその人に近づけていく。その人に共感できる自分を作り上げて、それを自分の中に落とし込む。それをやっていって初めて自分の性格を認識できるようになったのかな。

参加生徒

大きな出来事があって変わったってことだと思うんですけど、なんでそう思ったかって言うと、先ほどおっしゃったように、私も途中で変わったら楽になれるんだろうなって思った時が1回あって、それが今も続いています。その前までは全然明るかったのに、ショッキングな出来事で継続的に苦しめられて、まあ「これ変わないとやべえな」って思ってた。だから性格っていうのは、変えることもある程度は融通が利くんじゃないのかなってちょっと思いました。

ファシリテーター

ちょっと聞いていい？ごめんね、あのさ、みんな自分の性格こうだって把握して説明できる。そうするとそれは、「自分の気質がこうだ」っていう意味での自分の性格を把握してるなのか、「周りの人からこう見られているだろう」という意味での自分の性格の把握なのか。一応今の話の中だとその2種類がある気がして。どっち？

参加生徒

私は「人からこう見られてる」が9~8割だと思ってて。でも、それもなんやかんや「人から見られてるもの」だからぼんやりしています。でも自分しか気づけない部分ってあると思ってるので、人には見せないような、1人の時にしか出ないような性格も1割。それを合わせた感じのぼんやりしたものがあるだけで、ちょっと割合が動いたとか。私もはっきり自分の性格を分かっているかって言われたらそんなに分からない。

ファシリテーター

はい、ありがとうございます。

参加生徒

僕自身は憧れた人が他人だったこともあって、「この人は僕からこう見られてるから、他の人からもこう見られてるだろうな」っていうので、他人が僕をどう思ってるかも大体分かります。さらに、「この人は多分こう考えたからこういう行動したんだろうな」みたいなのからちょっとずつ想像して行って、その人の性格を自分の中で作り上げて落とし込んでるので、その人の考え方も結構分かるし、その人が外からどう見られてるかも結構分かるっていう自信があります。

ファシリテーター

ありがとうございます。なんかそうすると、ごめん、俺分かんなくなっちゃった、なりたい自分になれるんじゃない、その話。

参加生徒

性格と気質が私の中でこんがらがっているですけど。変わらない気質はあると思ってるけど、思考の癖をちょっと取り除いてみたりとかすれば、変わって行く所があると思ってます。だから、なりたい自分に完全になるっていうのは、100%は無理だと思うけど、限りなく100に近いものになっていくのは、それをコントロールする力さえあればできるんじゃないかなって思ってます。

ファシリテーター

ありがとう。

参加生徒

私も同じように思っていて、限りなく近づけることは、その人の努力さえあれば、きっといけると思うんですよ。でも本当に、多分ほんとに0.0何パーセントかもしれないけど、自分の根底にあった性格とか気質っていうものが少なからず残るんじゃないかなと思っっています。だからこそ、自分のこういうところが嫌いで、こういうところを変えたいんだっていう欲望や願いとかが出てくるんじゃないかな。

ファシリテーター

ちょっといい。気質。多分変わらないものを気質と呼ぶ。これはみんな共通でいきましょう。その気質は生まれつき作られるか。

参加生徒

私は、気質っていうのは自分の経験値から出た情報だと思ってます。だって、私たちが何か起こったとしても忘れることってないじゃないですか。大体「こういうことがあったから私はこういう行動に出る」っていうのがだんだん積み重なって行って気質になるんだと思います。

ファシリテーター

じゃあ、生まれながらに全員赤ちゃんは白紙であると。はい、そういうことですかね。

参加生徒

自分は繊細なんですけど、それをよくよくネットで調べてみると、HSP 気質って呼ばれるらしく、障害とかではないんですけど、いわゆるコミュ障とかと同じ類いで、「こういうとこ傷ついてしまう」「もう嫌だ」ってなってしまう考え方って昔からあるので、やっぱり気質はそれぞれあって、変えられないものなんじゃないかなと思います。

参加生徒

生まれつきかなって思ったのは、2歳の時とか小さい頃の記憶があります。その時考えてたこととかもなんとなく覚えてて、こう、水族館に行ったこととか、綺麗だったなって思ったことと同じように、自分と世界が離れちゃってるんじゃないかっていう恐怖感があります。多分それって気質だと思ってて。

その時に何か辛いことがあったかって言われたら、特に思い浮かばなくて。

自分の親とかも結構繊細なタイプで、両親どっちもそういう人だったから、その気質が自分にも来て、環境がそういう気質を助長させたところはあったとしても、生まれ持ったものっていうのはすごく大きいと思います。

ファシリテーター

それ、遺伝の可能性みたいなことですか。

ちょっと、じゃあ聞いていい？今ね、自分の気質について話してくれましたが、自分の気質ってこうだって彼女のように言える子います？

(数人賛同)

言える言える。他、皆さんどうですか。おお。

全然わかんないって人？自分の気質。

これ、生まれつきなのかどうか、多分そこが今回の多分ポイントになってくるのかな。はい。

参加生徒

僕、他人に寄せたっていう話をさっきから何度もしてるじゃないですか。でも相手が女性だったこともあって、10パーセントぐらい元の自分が入ってるんですよ。

どうあがいても近づけない壁、性別の壁だったりその人の他人には見せない面だったりとか。その部分は僕の想像で補填するしかなくて、そういう部分でも絶対に近づけないし、その人だけのものもあるし。でも多分そこで変えられてない部分は僕が元から持ってたものであって、元の僕の社交的な明るい性格、そういうものが残るってことだろうし、お父さんも元々の僕と同じで明るいタイプなんで、やっぱり遺伝とかそういうものは残るんじゃないかなって思ってます。

ファシリテーター

生まれつき派がちょっと増えてきましたが、いかがですか。はい。

参加生徒

私はね、生まれつきの部分はあると思うんですよ。どうしても、両親に似てる気がしてて。それって両親と一緒に暮らしてたからなのか。

遺伝なのか、どっちなんだろうと思ってて、私は両親と暮らしてたからなんじゃないかなと思うんですよ。

私、単身赴任とかもあって父親と暮らしてた年数がちょっと少なくて母寄りなんですよ。なんかそれを考えると、一緒に暮らしてたからなのかなって思う部分があって。だから生まれつきな部分も少なからずあると思うんですけど、一緒に暮らしてるからで、母とかとコミュニケーションを取ることによって、そこにちょっとずつ偏ってるんじゃないかな。

ファシリテーター

今の話で、やはり生まれた時にはみんな白紙であり、でもやっぱり親に染まっていつているからなんじゃないかって考え方ですよ。

参加生徒

私は赤ちゃんは生まれた時は白紙じゃないって考えてます。なんでかって言うと、例えば私は妹がいるんですけど、私の幼少期はプリンセスが好きで、妹の幼少期は極端で、一般的に言うと男の子が好きなき感じのものが好きだったんですけど、特にそれは親に勧められたとかではなくて、ただ単に自分が好きだと思ったから。私はディズニープリンセスとか大好きだったけど、妹も最初はディズニープリンセスを私のお下がりを持ってたんですけど、それより私の兄のお下がりのおもちゃの方に興味を示したり。そこは誰にも勧められてないから本人の生まれ持った性格ではなくて、気質の方なんじゃないかなと思って。そこに後から両親が色々な接し方をして肉付けされていくのが性格で、気質はやっぱりあるんじゃないかなって思ってます。

ファシリテーター

そろそろ最後の方ですので。

参加生徒

気質はやっぱり変わらなくて。気質っていう丸い球体で変わらない。ガラスの球体があって、その周りに肉付けされていくような感じ。例えば大会で優勝してめっちゃ嬉しかった、それが成功で自信がついたみたいな、なんか色々くっついてくると思うんですよ。親とかの過ごし方とかくっついていった結果、今の性格っていうものが出来上がっても、これから追加することもあるだろうし。

ファシリテーター

じゃあ最後よろしいですかね。はい。

参加生徒

1 番視覚的に分かりやすい表現から言うと、僕のお父さんは体重が 100 キロ超えてるんですね。でも身長は僕とほぼ同じぐらい。18 歳って言っても、やっぱり性格も遺伝するものだし、遺伝の度合いも強弱はあると思っています。

体重だって、僕は今 50 キロぐらいしかないんですけど、お父さんは 100 キロ超えても身長は同じぐらいだから、それと同じように性格が父親の性格を強く受け継ぐ人と強く受け継がない人が現れて、成長していくにつれて、親を反面教師にする人と反面教師にしない人っていうものが現れて。でも、結局のところ、僕は根の部分はあんまり変えられないと思っています。反面教師にはできるけど、知らない人の反面教師はできないじゃないですか。だから、ある程度自分の知ってる人に帰属したものになってしまうんじゃないかなと思いました。

ファシリテーター

じゃあ、ちょっと最後まとめますね。

今までの話まとめると、性格というものは真ん中に核があり、これは変わらない気質と呼ばれるものである。で、その上にいろんな肉付けをしていくのはおそらく環境であり、憧れの人やいたりとか、こう見られたいという欲だったり、こうじゃないと生きていけなかったというようなことで、その周りの部分は変わっていく。でも、真ん中にあるその気質の核の部分というものは、場合によっては生まれながらの可能性もあるし、またそれは小さい時に親の親という環境によって作られたものの可能性がある。その辺りがどちらかなのかが、ちょっと僕らでは答えが出ないところだと思いますので、自分自身にちょっと問いかけながら考え続けてみてください。じゃあ、一旦これで終わりにします。拍手で終わりにしましょう。